達　人

～大山倍達氏に～　草壁焔太

その人は道をきわめた
だれもそこへは
いっしょに
登れなかった
道は一人のためのものか
何年か何十年か
何百年かがすぎた
その間
だれも来なかった
山も谷も道も
人を忘れた
やがて道は消えた
千年たったころ
やっと人が一人
登ってきた

国際空手道連盟 極真会館 創始者
大山　倍達（1923 ～ 1994）

9 歳の頃から拳法を学び 16 歳で初段となる。
17 歳で 2 段、20 歳で 4 段とますます強さを発揮する。
1946 年、身延山にこもり、1 年間空手を修行し、
戦後初の武道大会空手の部で優勝する。
1948 年、清澄寺に 1 年半こもり修行した後、
1949 年、牛の角折を研究する。
7 ヶ月間、屠殺場の近くに住み、50 余頭の猛牛を倒す。
1952 年、日本空手の代表として渡米。
各地でエキシビジョン、テレビ出演し、
ウイスキーのビンを切る手は「ゴッド・ハンド」（神の手）
と賞讃され、今でも伝説として語り継がれている。
1994 年 4 月 26 日、肺癌のため聖路加病院で逝去。
享年 71 歳。

世界チャンピオン誕生！
百富悠選手 W 優勝！！
目標を掲げた1年間
(2023.9 ～ 2024.8)

世界大会「型」優勝

世界大会「組手」優勝

空手道
門馬道場

太気拳の佐藤嘉道先生より頂いた書

桑野道場1周年記念会

4月開設の「いわき湯本道場」

太氣拳・佐藤嘉道先生

佐藤嘉道先生のセミナー

ラデク師範（ポーランド）が来福

学校などから要請の「武道教室」

各イベントで演武披露

各地で復活した納会

第２回 世界総極真 世界空手道選手権
代表選手 結団式

20名が世界大会の舞台へ

世界大会「型」で３名入賞

世界大会「組手」で７名入賞

２名が初段を許可されました

500人以上が参加の合宿＆セミナー

「第２回ルーキー錬成大会」の入賞者

「第17回全福島空手道選手権大会」の入賞者

「第18回チャレンジカップ in 白河」の入賞者

目　次

大会式次第 …… 4
ごあいさつ …… 5
大会顧問紹介 …… 10
大会役員 …… 12
大会規則 …… 14
審判の動作 …… 15
決まり技 …… 16
反則技 …… 17
型試合基準及び判定法の解説 …… 18
試合コート・トーナメント表 …… 19
《型の部、幼年の部～一般組手の部》
道場紹介 …… 44
協賛広告 …… 59

大会式次第

令和６年９月22日（日）

8：00　開　場

8：45　開会式

- 選手入場
- 開会太鼓
- 国旗掲揚
- 大会会長挨拶
- 役員及び来賓挨拶
- 大会実行委員長・大会審判長挨拶
- 選手宣誓
- 審判長注意・ルール説明
- 選手退場

9：30　試合進行

- 型の部
- 組手の部

17：00　閉会式

- 入賞者入場
- 表彰式
- 大会会長挨拶
- 役員挨拶
- 大会実行委員長・大会審判長挨拶
- 国旗降納
- 閉会太鼓

※進行上の事情により上記に変更がある場合がありますのでご了承下さい。
【表彰について】
１部門９名以上の参加の場合（４位）まで表彰
１部門５名以上８名以下の参加の場合（準優勝）までの表彰
１部門４名以下の参加の場合（優勝）のみ表彰

ご　あ　い　さ　つ

国際空手道連盟
極真会館　代表

大石道場範士
大石　代悟

第18回全福島空手道選手権大会開催おめでとうございます。

本大会開催に尽力された門馬師範、門馬道場生、関係者の皆様、まことにありがとうございます。常々、門馬師範が目標として掲げている『日本一の県大会を行う』という強い思いのもと、盛大に大会が開催されることを、非常に嬉しく思います。

昨年11月に行われた『第２回総極真世界大会』では、組手試合・型試合共に、門馬道場生が大活躍しました。本大会をきっかけに、全日本大会や世界大会で新たに活躍する選手が、多数輩出されることを願っています。

我々の組織である「世界総極真」は、世界情勢が不安定な中でも、確実に成長しています。海外においては特に、『純粋な極真空手に打ち込み、継承する』という総極真の『稽古集団である』というコンセプトに共鳴し、多くの国や道場が加盟しており、既に次回の世界大会（2027年開催）への参加を表明しています。

国内においても「空手母国」として、ますます各道場が発展・成長していくことを願っています。

押忍

大会顧問

福島県知事
内堀　雅雄

「東日本大震災復興支援チャリティー　身体障がい者チャリティー　第18回オープントーナメント全福島空手道選手権大会」が、県内外より多くの選手・役員の皆様をお迎えし、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

日本古来の武道の一つである空手道は、日々の稽古で心身の錬磨に励むとともに、礼節や道徳心の涵養に努める理念が評価され、年齢や性別を問わず世界中で多くの人々に愛好されている競技です。

本県では、「スポーツ推進基本計画」を策定し、県民の誰もが豊かなスポーツライフを創造し、生涯にわたってスポーツに親しみながら、地域で心身ともに健やかに暮らすことができる「スポーツふくしま」の実現を目指し、様々な施策を推進しております。

このような中、本大会が開催されますことは、空手道の普及･発展はもとより、生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成につながり、本県のスポーツ振興にも大きく寄与するものと期待しております。

本大会に参加される選手の皆様には、日頃の稽古で培われた気力と技を思う存分に発揮され、白熱した試合を展開されますとともに、大会を通じて空手道を愛好する仲間との交流の輪を一層深め、思い出に残る大会となりますことを期待します。

結びに、本大会の開催に当たり、多大なる御尽力を頂いた関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、選手の皆様の御健闘と本大会の御成功をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

大会顧問

衆議院議員
玄葉　光一郎

大会のご盛会をお喜び申し上げますとともに、出場選手の皆様が日々の厳しい稽古と努力を積み重ねられこの日を迎えられたことを大変嬉しく思います。

今夏に開催されたオリンピック・パラリンピックでも各競技に必死で取り組む選手たちの姿が多くの国民に感動と与え、スポーツのすばらしさを再認識させてくれました。

スポーツ、特に武道とは自らに厳しい肉体的・精神的鍛錬を課すことによって、己の人間形成を図る、すなわち人としての正しい道を極めようとするものであります。ジュニア選手の皆さんには、空手を通じ、その技術を高めると同時に、「強い精神力」と「礼節」、「相手を敬う気持ち」を養って頂きたいと願っております。空手によって培われた壮健な身体と強く優しい心は、皆さんのこれから歩んでゆく人生の中できっと大きな支えとなってくれるに違いありません。

出場選手の皆さんが日頃の鍛錬の成果を存分に発揮され、本大会が実り多き充実した競技会となりますとともに、仲間たちとの友好の輪を広げる素晴らしい交流の場となりますことをご期待申し上げます。

結びに、大会開催に向けて大変なご尽力を頂きました極真会館・門馬智幸師範様はじめ、関係者の皆様方に心より敬意を表し、お祝いのことばといたします。

ご　あ　い　さ　つ

大会顧問

衆議院議員
小熊　慎司

「東日本大震災復興支援チャリティー　身体障がい者チャリティー　第18回オープントーナメント全福島空手選手権大会」が、本年も無事開催されますことを深甚よりお慶び申し上げます。

コロナ禍の間は中止を余儀なくされましたが、昨年より再びの開催ができるようになりましたこと、ひとえに皆様方の並々ならぬご努力とご尽力の賜物であると深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

そのような中でも、鍛錬を弛むことなく続けて来られた選手の皆様の姿は、県外におられて「ふるさと福島」を想う方々や、未だ途上である大震災からの復興に励む方々への大きな力と希望になるものと確信しております。

スポーツ、とりわけ武道には、身体の鍛錬はもちろんですが、何よりも精神の鍛練にこそ神髄が宿るものだと思います。相手を敬い礼節を尽くし、「心・技・体」を磨くことにより、自分自身が成長することができます。また、仲間と切磋琢磨し、励まし合い助け合うことにより、フェアプレーの精神を学び、他人に対する優しさや思いやりを育み、何事にも「感謝の心」を持つことのできる人間形成に大きな役割を果たしていると考えます。日頃より空手道を通じて並々ならぬご尽力をいただいております、国際空手道連盟極真会館門馬道場・門馬智幸師範に心より敬意を表します。

出場選手の皆様が日頃の鍛練の成果を存分に発揮され、実りある、更なる飛躍を遂げられる大会であることをご期待申し上げます。また、開催にご尽力いただきました関係者の皆様方、ご参加の選手の皆様方、またご父兄の皆様方に心よりお祝い申し上げますとともに、門馬道場の益々のご発展と、本日ご参集の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

大会顧問

衆議院議員
上杉　謙太郎

「東日本大震災復興支援チャリティー　身体障がい者チャリティー　第18回オープントーナメント全福島空手道選手権大会」が開催されますこと、心からお慶び申し上げます。門馬智幸師範をはじめ、大会ご関係皆様のご尽力の賜物であると深く敬意を表します。

さて、東日本大震災・原発事故発災から14年目を迎えました。風化と風評の中、復興に向かい前を向いて歩いている我々福島県民にとって、円安に伴う物価高騰や、気候変動による農作物の不作や電気代の高騰等、私たちの生活を取り巻く社会状況は国内外ともに厳しさを更に増しています。被災地の復興はまだまだ続く課題ですが、私たち一人一人の力が集まれば、必ずや再生への道を切り開くことができると信じております。

私も政治に携わるものとして、「政治の道は究極の人間道」との信念のもと、「極真の道を全う」されている皆様にご指導いただきながら、福島県の未来のため、そして日本国、世界の未来のため、政治道にて精進していく所存でございます。

結びに、「心身を錬磨し、武の真髄を極め、極真の道を全う」され、稽古に励んでこられた出場選手の皆様のご健闘をご祈念し、また門馬智幸師範をはじめ門馬道場の益々のご発展をご祈念し、お慶びのご挨拶とさせていただきます。

大会顧問

参議院議員
森　まさこ

「東日本大震災復興支援チャリティー 身体障がい者チャリティー 第18回オープントーナメント全福島空手道選手権大会」が、本年も県内外から多くの選手のご参加のもと盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。

また、日頃より空手道を通じて、心の強さを養い健全な青少年の育成や地域社会の貢献にご尽力をいただいております門馬道場の皆様、関係者の皆様方に改めて敬意と感謝の意を表します。

選手の皆さんが空手道を通じて培った強い精神力や礼節、そして相手を敬う心は、人生においての基盤となり、武道の枠を超えて、より良い人間関係や豊かな人生を築くための道しるべとなることと思います。そして、仲間と励まし合い切磋琢磨することは、選手としてだけでなく一人の人間としても成長させてくれることでしょう。

本大会では、日頃の鍛錬の成果を発揮されご健闘されますとともに、同じ道を志す仲間との友好を深められ、充実した競技大会となりますことを心から願っております。

東日本大震災から13年が経過しました。能登半島地震をはじめ近年の激甚化する自然災害、物価の高騰等課題は山積しておりますが、選手の皆さんからパワーをいただき、福島県の復興創生の為、より一層力を尽くしてまいります。

結びに、空手道の更なる振興・発展とご参集の皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

ご　あ　い　さ　つ

大会顧問

参議院議員
星　　北斗

「東日本大震災復興支援チャリティー 身体障がい者チャリティー 第18回オープントーナメント全福島空手道選手権大会」が関係者の皆様のご尽力により、本年も盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

空手道は単に勝敗を競うことのみが目的ではなく、日頃からの心身の鍛錬の成果を発揮し、自己と向き合い、自分自身に打ち勝つことを目的とした武道であり、お互いへの敬意と礼節とを養い、自らの精神力を鍛えることで健全な人間形成を目指すという、日本が世界に誇るスポーツであり、また生きる道でもあります。

空手を修行する皆様の姿が福島県民そして未来を担う子ども達に夢と希望を与え、本大会が復興の更なる後押しとなりますこと、そして試合に臨まれる皆様が日頃の練習と鍛錬の成果をいかんなく発揮し、悔いなく戦い、その技術を一層磨かれますとともに、同じ道を志す仲間との交流を深め、実り多い大会となりますことをご期待申し上げます。

結びに、日頃より空手道を通じて青少年の健全な成長のためにご尽力される、門馬智幸師範をはじめとする極真会館門馬道場の皆様に深く敬意を表し、その更なるご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

大会顧問
（大会開催地）

須賀川市長
大寺　正晃

東日本大震災復興支援チャリティー身体障がい者チャリティ ー「第18回オープントーナメント全福島空手道選手権大会 」が、今年も 県内各地から多くの選手、指導者、役員の皆様をお迎えし、円谷幸吉メモリアルアリーナで 開催されますことに対し、市民を代表いたしまして 心から歓迎申し上げます。

また、極真会館門 馬 道場の皆様に は、日頃から空手道を通じ、青少年の健全育成にご尽力いただいており 、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

本大会は、「強い精神力」と「礼節」をもった健全な人間形成と、日本古来の武道である「空手」に対する意識や技術の向上を目的に、日頃の鍛錬の 成果を試す機会として、さらには、空手を通した社会貢献の場として開催されております。

「日本一の県大会」と称される本大会において、皆様の 闘志あふれる熱戦が 、福島に元気 と勇気 を与え 続け てくれるものと確信しております。選手の皆様におかれましては、これまで の 鍛錬 で磨いてきた技術と精神力を 十分に発揮 し 健闘 されます とともに、同じく空手道を究めようと切磋琢磨する仲間と 大いに 親睦を深め られます ことを期待しております。

結びに、本大会を 開催 するに当たり、ご尽力いただきました関係各位に心より敬意を表しますとともに、本大会の成功と選手 の 皆様の 更なるご活躍を 祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

大会顧問

白河市長
鈴木　和夫

「東日本大震災復興支援チャリティー・身体障がい者チャリティー第18回オープントーナメント全福島空手道選手権大会」が開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。

また、主催者である門馬道場の皆様には、日頃より青少年の健全育成にご支援とご協力を賜っておりますことに、この場をお借りし、厚く御礼を申し上げます。

さて、この福島に大きな爪痕を残した東日本大震災から、早いもので13年が経過いたしました。

しかしながら、一部沿岸地域では未だ避難生活を余儀なくされているほか、最長で40年かかるといわれる廃炉作業の遅れ、風評被害や子どもたちの体力低下など、課題が多く残されています。

さらに、急速に進む人口減少や少子化、それに伴うコミュニティの衰退、激甚化・頻発化する自然災害など、私達を取り巻く社会情勢は、日を追うごとに厳しさを増しています。

こうした中、夢や希望を抱き自分らしく生きていくためには、基礎学力や思考力に加え、リーダシップ、他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力など、社会を生き抜く総合的な力である「人間力」を高めていくことが何より欠かせないものと考えております。

相手の心を理解し思いやる「礼節」を重んじ、自己鍛錬を追求する「強い精神」を鍛え上げる空手道は、まさに、この「人間力」の醸成に繋がるものであり、その果たす役割は、今後益々大きくなるものと考えております。

今大会に参加される皆様方におかれましては、今後も稽古に汗を流し、空手道に邁進し続けていただきたいと思います。

結びに、門馬道場様の益々のご隆盛と関係者の皆様方の更なるご活躍を心より祈念申し上げ、お祝いの挨拶といたします。

ご あ い さ つ

大会顧問
（本部所在地）

矢吹町長
蛭田　泰昭

「東日本大震災復興支援チャリティー　身体障がい者チャリティー　第18回オープントーナメント全福島空手道選手権大会」が盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。

また、日頃より、国際空手道連盟 極真会館 世界総極真 門馬道場におかれましては、空手道を通じ、青少年の健全育成に多大なご尽力をいただいておりますとともに、今年で第17回目を迎える本大会の開催にあたりましては、門馬師範をはじめ関係者の皆様の並々ならぬご努力によるものであり、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故から12年が経過いたしました。しかし未だ多くの課題を抱えております。

このような中、選手の皆さんの決してあきらめず力強く戦い抜く姿は、多くの皆さんに「夢」と「感動」と「勇気」を与えてくれるものであり、復興を大きく後押しするものと確信しております。

武道の精神を学ぶことは、難局にもくじけずに立ち向かう克己の精神を養い、相手をいたわる気持ち、他人を思いやる優しさを身に付け、人間として立派に成長していくことに大きく寄与するものと考えております。

結びに、選手の皆様には、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮され、心身ともに実り多き大会となりますようご期待申し上げますとともに、大会関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表し、今後益々のご活躍をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

大会顧問
（門馬道場　顧問）

福島県議会議員
渡辺　義信

ある方から教えを頂く機会があり、毎週日曜日の朝の、御先祖のお墓掃除と地元の神社詣でが習慣になりました。

決して奇麗とは言えない状態だった我が御先祖のお墓も、ようやく世間様並みに整ってまいりました。掃除の後に焼香・合掌し無心になろうとすると、御先祖の皆様から「飽きもしないで今朝もご苦労さん」と言われた気がします。亡くなって十余年の親と、顔すら知らない多くの御先祖と気持ちがつながった気がします。

地元の神社は、長い石段がズレていたり苔が生して滑り易かったりして、雨上がり等は危険な状態です。しかし、これも神様からの「足元に注意して歩きなさい（地に足が付いた生き方をしなさい）」とのメッセージではないかと、思えるようになりました。週に一度しか時間を取れずにいる不信心者ではありますが、新たな気づきに感動を覚えています。

「そう言えば、この感覚をどこかで体験したことがある」脳裏に浮かんでいたおぼろげなつかえが先日取れました。気になっていた既視感は、清々しい汗を流した稽古の後に、真っ白な頭になって、毎回発した道場訓でありました。

『我々は神仏を尊び　謙譲の美徳を　忘れざること』

の本当の意味が腹に落ちる迄、何年もかかった自分を恥じます。

道場訓の一節でさえ、身に着くまでに何年も要する事さえある、門馬道場の教えの奥深さを再認識しております。門下生の益々の精進と、指導者･後援者の皆様の益々の充実を念じます。

大会会長

門馬道場　連合後援会会長
関根　照夫

「全福島空手道選手権大会」の第1回目から大会会長を務めさせて頂いております。

最初のうちは門馬道場生の白帯門下生が多く1面のコートでしたが、今では全国のみならず海外からも選手がエントリーをする世界大会出場の権利大会に認められるまでに大きくなりました。

今年は第18回目となりますが、この歴史の中でまず忘れられないのは東日本大震災の年になります。放射能問題の誹謗中傷もあり県外からの選手が激減しても初回に戻って門馬道場生で盛り上げようと奮闘する師範たちの姿を見てきました。結果その年の大会は過去最高の人数となり、全国から応援を受け愛される組織になっているのだと驚かされたことを思い出します。その後の台風19号でアリーナが浸水した年も「あきらめない心」で成功させてきました。

しかし新型コロナウィルスとの問題では大会中止を決断し、時間が経過した中での第18回目の大会ですが、ここでもまた過去最高の選手が集う結果となりました。不安を抱く中でも、多くの門下生が“挑戦の場”を求めているのだと感じました。

困難に負けない強さ、困難から逃げない強さ、困難に立ち向かう強さ。その強さを試すのが大会であると思います。感染拡大防止の対策を練りながら環境を整えて参りました。本日は選手皆さん一人ひとりが、「己に勝つ」「あきらめない心」を持って試合することを願い全力を出し切る事を期待しています。

ご あ い さ つ

大会実行委員長
・
大会審判長

国際空手道連盟　極真会館
門馬道場師範
門馬　智幸

「第18回オープントーナメント全福島空手道選手権大会」が、今年もここ須賀川の地で開催されるにあたり、感慨深い気持ちと同時に関係各位の温かいご支援とご協力に心から感謝申し上げます。

日本は現在も、さまざまな困難が続いており、地政学的な緊張や気候変動による自然災害、そして経済の変動など、私たちを取り巻く環境はますます厳しくなっています。特に、異常気象や気候変動の影響が年々深刻化している中で、自然環境への取り組みが年々重要性を増しています。災害の頻度や規模が変化しつつある中、私たちは常に警戒を怠らず、復興への強い意志を持ち続けることが求められています。

空手道は、困難に立ち向かう勇気と、逆境を乗り越える強さを育みます。過去には、東日本大震災や台風19号、そして新型コロナ感染症の影響で、度々大会の中止や会場の変更を余儀なくされましたが、その度に我々門馬道場は困難に立ち向かい「あきらめない心」で乗り越えてきました。

そして今回、福島県は未だに続く放射能問題などがある中でも、今大会には620名を超える選手が参加してくれた事に心から御礼を述べたいと思います。同時に、今大会を始め日頃の様々な行事に関しても、門馬道場関係者が、何事にも常に前向きな姿勢で取り組んで頂いている事に心より感謝致します。

私が、常々言っている「空手は習い事ではなく生き方である」という言葉通り、私達門馬道場は、空手を通じて生きる力を育んできました。空手に救われ、空手で勇気付けられ、空手から生きる力を貰っている人が、私を始め沢山います。どんなに困難な問題に直面し、苦しい時でも夢や目標に向かって努力する事の大切さを学んできました。

空手道の修業とは、平時の努力において有事の際の備えとする道でもあります。単に武技のみの鍛錬ではなく「心」を磨き、日々（平時）の修練の積み重ねが「心の強さ」を養い、本当の「やさしさ」に繋がり豊かな人間性を育む。それこそが、有事に際しての「心のゆとり」であり、門馬道場が目指す空手道であり、武道教育の原点であると考えます。

今大会も、大石範士初め多くの師範や先生方、道場生、保護者の皆様が暖かい励ましを寄せて下さいました。その想いに応えるためにも、今後とも門馬道場一丸となり、真の道を極め、地域の青少年の健全な成長を支援していく決意です。皆様には、今大会を通じて武道空手への理解を更に深めて頂き、今後もご指導頂けますようお願い申し上げます。

11/1～願書受付開始

強い相手に勝つよりも
弱い自分の心に
まけない強さ

あきらめない心

心 学 体

門馬学園はココがイイ！！

01 やりたいこと・夢を応援します！
生徒一人ひとりの個性を尊重し、スポーツや芸能・音楽など目標や夢の実現に向けてサポートします。

02 目標とする事を一緒に探します
将来に向けて不安を抱き、どうしたらよいかと迷う生徒には、職場体験などを通して〝やりたい事〟、〝頑張りたい事〟を共に見つけます。

03 気合いを入れて、自信をつける
日本を代表する空手指導員のもと、武道の世界に触れながら、心と体を強くして〝逃げない心〟を培います。

安心できるサポート体制　「門馬学園」は、実績ある「八洲学園大学国際高等学校」の提携校です。

八洲学園大学国際高等学校についてのご紹介

通信制のパイオニア 八洲学園大学国際高等学校

八洲学園大学国際高等学校は、平成12年3月に沖縄県から学校設置の認可を受けて、日本初の合宿制による集中スクーリング方式の通信制高校として開校をしました。全国の都道府県から入学できる「広域通信制」のパイオニアでもあり、今では約6,407名（令和5年3月時点）の卒業生を輩出し、現在も多くの生徒が勉学にスポーツに励んでいます。

MONMA GAKUEN

門馬学園

お気軽にお問い合わせください。
0248-63-7005
郡山市桑野二丁目34番25号
DAIDO BASE 一階

大会顧問紹介

衆議院議員
上杉謙太郎

衆議院議員
小熊慎司

衆議院議員
玄葉光一郎

福島県知事
内堀雅雄

福島県議会議員
満山喜一

福島県議会議員
渡辺義信

参議院議員
星北斗

参議院議員
森まさこ

福島県議会議員
水野透

福島県議会議員
渡辺康平

福島県議会議員
吉田誠

福島県議会議員
三村博隆

郡山市長
品川萬里

伊達市長
須田博行

二本松市長
三保恵一

福島市長
木幡浩

いわき市長
内田広之

白河市長
鈴木和夫

須賀川市長
大寺正晃

会津若松市長
室井照平

西郷村長
髙橋廣志

三春町長
坂本浩之

棚倉町長
宮川政夫

矢吹町長
蛭田泰昭

天栄村長
添田勝幸

泉崎村長
箭内憲勝

選手の皆さんの
ご活躍を期待致します

※大会顧問は主に道場所在地の市町村長にご依頼致しました。

故小野寺勝美師範より頂いた書

道　場　訓

一、吾々は心身を練磨し、確固不抜の心技を極めること
私たちは空手を修行することで、自分自身の心と体を鍛え、どんなことにも動じない精神と技を完成させること。
いかなる場合も、文武両道を極めるということを忘れてはならない。

一、吾々は武の神髄を極め、機に発し感に敏なること
私たちは武道における精神を探求し、どんな状況でも臨機応変に対処する力や相手を理解する思いやりや優しさを身につけること。また技術においても、空手にとって大切であるタイミングとスピードは大切な要素であり、これらも身につけること。

一、吾々は質実剛健を以て、克己の精神を涵養すること
私たちは決して自分を飾ったり、いばることなく、素直に空手の修行に打ち込むことによって自分自身に打ち勝つ、強い心を養っていくこと。簡素な生活こそ、己に勝てる人間を造る、最上の条件である。

一、吾々は礼節を重んじ、長上を敬し粗暴の振舞ひを慎むこと
私たちは武道を学ぶことによって、しっかりとした礼儀を身につけ、目上の人を敬う心を養い、乱暴な行動をしないこと。
礼を知らずして、精神の向上はあり得ない。

一、吾々は神仏を尊び、謙譲の美徳を忘れざること
私たちは神や仏を敬う心も忘れず、常にそう心がけることで、相手のことを大切にし、譲り合う心を身につけること。

一、吾々は智性と体力とを向上させ、事に臨んで過たざること
私たちは空手の修行を通じ、智性と体力をともに向上させ、どんな状況でも焦らず、冷静に対処することができるようになること。

一、吾々は生涯の修行を空手の道に通じ、極真の道を全うすること
私たちは武道としての空手の修行を一生かけて追い求め、極意に一歩でも近づこうと努力することが、本物の生きる強さを身につける事につながる。それが極真空手の本当の目的である。

大　会　役　員

◆国際空手道連盟　極真会館

大石　代悟　（代表・大石道場範士）

◆大会名誉会長

故小野寺勝美　（国際空手道連盟　極真会館　岩手小野寺道場）

◆大会相談役

海野　　孝　（国際空手道連盟　極真会館　大石道場師範）

◆大会会長

関根　照夫　（門馬道場　連合後援会会長）

◆大会副会長

鈴木　俊雄　（白河地区後援会会長）
小野　浩喜　（須賀川地区後援会会長）
千葉　政行　（福島地区後援会会長）
平石　秀樹　（郡山地区後援会会長）
目黒　守司　（会津地区後援会会長）

◆大会顧問

内堀　雅雄　（福島県知事）
小熊　慎司　（衆議院議員）
森　まさ子　（参議院議員）
渡辺　義信　（県議会議員　門馬道場顧問）
三村　博隆　（県議会議員）
渡辺　康平　（県議会議員）
木幡　　浩　（福島市長）
須田　博行　（伊達市長）
室井　照平　（会津若松市長）
鈴木　和夫　（白河市長）
蛭田　泰昭　（矢吹町長）
坂本　浩之　（三春町長）
箭内　憲勝　（泉崎村長）
玄葉光一郎　（衆議院議員）
上杉謙太郎　（衆議院議員）
星　　北斗　（参議院議員）
満山　喜一　（県議会議員）
吉田　　誠　（県議会議員）
水野　　透　（県議会議員）
三保　恵一　（二本松市長）
品川　萬里　（郡山市長）
大寺　正晃　（須賀川市長）
内田　広之　（いわき市長）
宮川　政夫　（棚倉町長）
髙橋　廣志　（西郷村長）
添田　勝幸　（天栄村長）

◆大会実行委員長・大会審判長

門馬　智幸　（国際空手道連盟　極真会館　門馬道場師範）

◆大会運営委員長

鈴木真美子

◆大会運営副委員長

門馬　大祐

◆大会運営組織

門馬道場　門下生一同
門馬道場　保護者一同

◆大会救護

堀越　一枝　（JA 福島厚生連　白河厚生総合病院副看護師長）
薄葉　郁哉　（JA 福島厚生連　白河厚生総合病院理学療法士）
前田　夏翔　（JA 福島厚生連　白河厚生総合病院理学療法士）
円谷　京子　（プライベートナース・結い看護師）

◆大会審判員

大　会　役　員

キャメロン クイン　（オーストラリア支部　師範）
奥田　勝己　（千葉県　武颯会師範）
髙橋　幸男　（北海道　髙橋道場師範）
釘嶋　秀三　（神奈川県　釘嶋道場師範）
西岡　成則　（兵庫県　西岡道場師範）
今城　真治　（福井県　今城道場師範）
佐藤　高貴　（北海道　佐藤道場師範）
橋本　英明　（埼玉県　橋本道場師範）
石垣　慎壱　（東京都　墨田道場代表）
鈴木　義浩　（東京都　石神井公園道場代表）
原　　一浩　（北海道　錬心道場代表）
菊池　正義　（東京都　友心会代表）
大谷　博登　（三重県　大谷道場代表）
江澤　正治　（静岡県　大石道場師範）
大石　和美　（静岡県　大石道場指導員）
柴田　　聡　（静岡県　大石道場指導員）
荒井　義忠　（静岡県　大石道場指導員）
杉本　龍哉　（静岡県　大石道場指導員）
安藤　克己　（静岡県　大石道場指導員）
小森　一良　（千葉県　武颯会師範代）
山本　英寿　（静岡県　大石道場指導員）
吉永　卓朗　（静岡県　大石道場指導員）
後藤七未江　（静岡県　大石道場指導員）
堀内　隼介　（静岡県　大石道場指導員）
釘嶋　典子　（神奈川県　釘嶋道場指導員）
秋山　正樹　（神奈川県　釘嶋道場指導員）
鈴木　　稔　（栃木県　小山道場指導員）
石神　里幸　（東京都多摩　大石道場指導員）
成田　武人　（千葉県　武颯会指導員）
日下部尚人　（静岡県　大石道場指導員）
野澤　歩生　（静岡県　大石道場指導員）
小笠原　快　（静岡県　大石道場指導員）
齋藤　　満　（静岡県　大石道場指導員）
石神　勇智　（東京都多摩　大石道場指導員）
小田　祥子　（静岡県　大石道場指導員）
椎橋　大樹　（千葉県　武颯会指導員）
酒井　陽平　（東京都　友心会指導員）
秋山　　茜　（神奈川県　釘嶋道場指導員）
飛田　弘行　（神奈川県　釘嶋道場指導員）
飛田　志保　（神奈川県　釘嶋道場指導員）
松下　利男　（極真勇姿舎　松下道場師範）
七野　　修　（極真勇姿舎　七野道場師範）
種那場正明　（極真勇姿舎　種那場道場師範）
中川　正士　（極真勇姿舎　中川道場師範）
八木　克昌　（極真勇姿舎　八木道場師範）
田賀　　博　（極真勇姿舎　田賀道場師範）
岡田　　剛　（極真勇姿舎　岡田道場師範）
森　　一郎　（極真勇姿舎　石川県道場師範代）
門馬　　功　（門馬道場師範代）
佐藤奈美子　（門馬道場指導員）
山名愼一郎　（門馬道場指導員）
鈴木　昭弘　（門馬道場指導員）
佐藤　明浩　（門馬道場指導員）
加藤久美子　（門馬道場指導員）
齋藤　真尚　（門馬道場指導員）

◆司　会

山名菜穂子

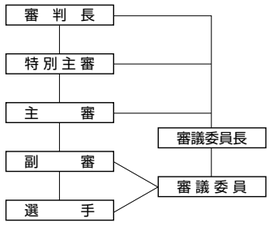
◆音響協力

神山　義久　（DEOS-PRO）
百足　清勝　（DEOS-PRO）
森　　秀夫　（DEOS-PRO）

大　会　規　則

【審判基準】

審判員および審議委員は同等の権限をもって競技の審査に当るが、競技に関する最終決定はすべて審判長の裁可による。大会は下図の構成によって進行される。



大会進行は極力、予定スケジュールに沿わせるがやむをえない事態が起きた場合は、審判長・審議委員長・副審判長・副審議委員長が協議の上、審判長が変更を指示する事ができる。

【組手と勝敗】

1. 試合時間
   ◎幼年部・小学生・中学生：
   本戦1分 30 秒→延長1分→再延長1分→
   体重判定（3kg 有効）→最終延長1分
   ◎高校生男子・女子部・シニア：
   本戦2分→延長2分→再延長2分→
   体重判定（5kg 有効）→最終延長2分
   ◎一般の部：本戦2分→延長2分→再延長2分→
   体重判定（5kg有効）→最終延長2分
   ※準決勝以降は本戦3分
2. 防具
   ◎男子＝幼年・小学生・中学生・高校生・シニア
   拳サポーター、脛サポーター、ファールカップ、
   ヘッドガード（幼年、小中学生は必須）
   ◎男子＝一般部
   ファールカップのみ。
   ◎女子＝幼年・小学生・中学生・一般・シニア
   拳サポーター、脛サポーター、ヘッドガード（幼年、小中学生は必須）、チェストガード（小学4年生以上で任意で着用可。）
   ※ヘッドガードは主催者側でも準備するが個人のものも使用可能。ただし、全面にガード（樹脂素材、軽金属素材）があるもので、目の部分に縦格子が入ってない物は使用禁止。
   ※拳サポーター・脛サポーターは布地のものを使用すること。（グローブ不可）
   ※チェストガードはプラスティック製や腹部にかかる形は使用禁止。
   ※膝サポーターは一般男子の部以外は任意で着用できる。大腿がガードされるものは使用禁止。
   ※テーピング類は大会医師の許可が必要。
   ※マウスピースは任意で着用できる。
3. 組手の勝者は、一本勝ち、判定勝ち、相手選手の失格、棄権による勝ち、により決定される。

【一本勝ち】

反則箇所を除く部分への突き、蹴り、肘打ち等を瞬間的に決め、相手選手を3秒以上ダウンさせるか、戦意を喪失させた場合は一本勝ちとする。

【技有り】

1. 反則箇所を除く部分への突き、蹴り、肘打ち等を瞬間的に決め、相手選手が一時的にダウンもしくは戦意喪失し、3秒以内に立ち上がった場合、またはそのダメージにより一時的に動きが止まったとき、または大きく崩れた場合。
2. 足掛け、または前蹴りや下段の合わせ技で相手をきれいに倒したときは技ありとする事も有りうる。
3. 技あり2本で合わせ一本勝ちとする。

【判　定】

1. 一本勝ち、失格がない場合は判定で決定する。
2. 判定は主審1名、副審4名のうち、3名以上の審判の判断を有効とする。

【延長戦】

1. 判定で主審1名、副審4名のうち、3名以上の審判の判断がない場合は引き分けとし延長戦を行う。
2. 延長戦で決着が付かない場合は体重差により軽い方を勝者とする。
   ◎幼年部・小学生・中学生の部：3kg 以上の差
   ◎高校男子の部・女子の部・シニアの部：5kg 以上の差
   ◎一般の部：5kg 以上の差
3. 体重差でも決着が付かない場合は最終延長戦にて勝者を決定する。

【反　則】

1. 次の場合は反則とする。
   ①手技による首から上へ（首をふくむ）の攻撃。
   ②金的蹴り、頭突き。
   ③倒れている相手への攻撃。
   ④背後からの攻撃。
   ⑤掌底押し、正拳押し、つかみ、投げ、手掛け、クリンチ。
   ⑥技の掛け逃げ。（蹴ってすぐに倒れる等を繰り返す。）
   ⑦何度も場外に逃げた場合。
   ⑧その他、審判が特に反則とみなした場合。
2. 反則は悪質なものを除き注意が与えられる。悪質な反則の場合、失格もありうる。

【減　点】

1. 次の場合は減点1とする。
   ①注意を2回与えられた場合。
   ②悪質な反則を行った場合。
   ③審判の判定により、悪質な試合態度とみなされた場合。
2. 減点2になった場合は、失格となる。

【失　格】

次の場合は失格とする。
①減点2となった場合。
②試合中、審判員の指示に従わない場合。
③粗暴な振る舞いや悪質な試合態度とみなされた場合。
④見合ったままの状態で1分間以上経過した場合。この場合は戦意喪失として、両選手とも失格とする。
⑤応援態度が悪質で目にあまるときは選手の減点または失格もありえる。
⑥出場時刻に遅れたり、出場しない場合。

【試合放棄】

正当な理由なくして試合を放棄した時は、15万円以下の弁償金を支払わなければならない。ただし、下記の場合は例外とする。
① 大会医師の診察を受け、試合続行不可能となった場合。
②大会直前または大会中に、本人に関係する不慮の事故（家族の不幸など）が発生し、審判長・審議委員長・大会弁護士が協議の上、退場を許可した場合。

【試合開始】

1. 両選手を進行係が呼ぶ。（このとき対戦者はお互いに反対の位置により試合場に登る）
2. 中央の線を境に一定の間合い3mをとり中央に主審が立つ。
3. 主審は「はじめ」の合図で試合を開始する。
4. 試合時間は前ページを参照。
5. 試合続行中、服装が乱れたとき、主審は試合を止めさせ、はじめの位置に戻し、お互いに背を向けて座らせ、服装を直させる。

【試合中】

1. 試合中、一本勝ち、技あり、反則、場外などの場合、副審は笛の合図とともにそれぞれ旗によって示す。主審は「やめ」の指示で両選手を分け、元の位置に戻す。
2. 旗の振り方は、以下の通りとする。
   ●一本勝ち・勝った選手の方の旗を斜め上に上げる。
   ●技あり・技ありを取った選手の方の旗を真横に上げる。
   ●反則・反則をした選手の方の旗を斜め下方で振る。
   ●場外・その側の旗を床につける。
   ●引き分け・中立・2本の旗を前で交差させる。
   ●認めず・2本の旗を交差させて振る。
   ●不明・2本の旗を目の前で交差させる。
3. 一本勝ち、技あり、反則の場合、主審は副審の判断を求め、3名以上の判断を有効として、それぞれ宣告する。
4. 反則については主審のみの判断で宣告することもできる。

【一本勝ち】

1. 相手が3秒以上ダウンまたは戦意喪失の場合をいい、主審の判断によって両選手の間に入って分け、試合を止め元の位置に戻す。
2. 副審の動作を見て、2名以上の同意によって決める。

【判定勝ち（優勢勝ち）】

1. 一本勝ち、失格がない場合、試合終了の合図によって、主審は「やめ」と指示し両選手を分け、元の位置に戻す。
2. 主審は両選手を正面に向かせ、「判定」と指示して副審の判断を求める。副審は各自の判断によって勝ち選手の方の旗を斜め上に上げ、引き分けと判断した場合は2本の旗を前で交差させる。主審の判断を合わせて3名以上の判断を有効とし、3名以上の判断がない場合は引き分けとする。
3. 引き分けの場合は、延長戦を行う。
4. 延長戦を2回繰り返しても判定がつかない場合は、体重測定を行い軽量の選手を有利とする。計量に当たっては審判長の裁可を必要とする。
5. 体重測定によっても判定がつかない場合は、最終延長を行う。

【反　則】

1. 反則があった場合は、主審が両選手の中に入って試合を止めさせる。
2. 距離的に副審が近い場合は、副審が止めさせ主審の裁決を仰ぐ。主審は、副審2名以上の同意があればこれを認める。
3. 反則の認定には原則として主審、副審3名以上の判断が必要だが、主審のみの判断で認定することもできる。
4. 反則には、悪質な場合を除き注意が与えられる。注意2回で減点1となる。
5. 悪質な反則、悪質な試合態度、何度も場外へ逃げた場合は減点となる。

【試合終了】

1. 一本勝ち、失格の場合、主審はただちに組手を中止させ、両選手を正面に向かせ勝ちを宣告し、両選手に正面に礼、主審に礼、互いに礼を指示し、退場させる。
2. 一本勝ち、失格がない場合は、試合終了の合図とともにただちに組手を中止させ、両選手を正面に向かせ副審の判断を求め、勝者を決定した上同様にする。

■一本■

■技あり■

■中立・不明■

■認めず■

■反則■

■場外■

決 ま り 技

正拳突き
seiken tsuki

上段廻し蹴り
jyodan mawashigeri /high roundhouse kick

前蹴り
maegeri/front kick

下段廻し蹴り
gedan mawashigeri/low kick

後ろ蹴り
ushirogeri/back kick

胴廻し回転蹴り
domawashi kaitengeri/roll kick

後ろ廻し蹴り
ushiro mawashigeri /spinning back kick

反 則 技

手技による顔面攻撃
punch to the face

首から上への手掛け
hooking

相手の道着を掴む
grabbing and holding

相手の手足を掴む
feet and arms holding

相手の背後からの攻撃
attacking from behind

金的への攻撃
groin kick

掌底で押す
pushing with open hand

頭突きによる攻撃
attacking with the head

倒れた相手への攻撃
kicking a downed opponent

型試合基準及び判定法の解説

【判定基準】

型の大意は、以下の六項目から成り立ち、その優劣を競うものとする。

①正確さ
　技の順序、技の脱落、立ち方、姿勢、正拳・手刀・中足・足刀等の形、技をかける目標・方向、そして、技の一つ一つに至るまで、「無駄な動きや乱れ」がないかなどを基準とする。

②力の強弱（パワー）及び気迫
　必要とするその瞬間だけに力を一点に集中しているか、また、その際に無駄な「力み」による技の乱れを誘発していないか、技を施した後直ちに「脱力」が出来、次の技の準備が出来ていることが重要である。また、常に「仮想敵を捉えた目付け」により技が生きているかなどを基準とする。

③身体の伸縮、転身（スピード、ジャンプ力、バランス）
　「身体の伸縮」とは、用いる技によって最も適した体勢に至ることを指すが、その間の「身体の速さ」も大変重要である。技を施す際、身体が縮み込んだままだったり伸び切ったままでは技に威力がなく、身体を縮めて解放する、解放したところから縮めることによって技に適した体勢を素早くつくることが重要である。加えて「転身」とは、各運足の方位から次へ向かう時の「身のこなし方」を意味し、各動作の一つ一つが速やかに繋げ、滑らかな「身体の移動＝中心及び重心」が行えることを基準とする。

④技の緩急（リズム、メリハリ）
　型とはあくまでも相手を想定して行うことが第一であり、その相手の動きに沿った最も有効な技を繰り出さなくてはならない。そこには自ら技の速さの相違が生まれる。ただし、それがただ技を急に速くとか、漫然と力無くゆっくりとやることを緩急というのではなく、将に「形」を生かすものとして行われる動作一つ一つの「集中力」である。そこには「リズム」や「メリハリ」が大切となり、これらをその基準とする。

⑤息の調節
　激しく動いたり、ゆっくり動いたりと、それぞれの動作において息を止めて力んだり、吸気の際に相手に悟られたりしないよう音を立てずに、穏やかに一定のリズムをもって、呼気と吸気を調和させ、乱れのない呼吸が出来ていることが重要である。もちろん、必要な瞬間には力強い“気合い”がかけられていなければならない。また、型が終わると、残心（残身）の息合いを乱さず、静かに顔を正面に向け不動立ちになり、正常の呼吸に戻れることを基準とする。

⑥型の「流れ」と表現力
　型の演武は、年齢・性別・体力・経験によって同じ型であっても違いがみられることは必然である。重要なのは、演武者がその型のもつ意味を正しく理解し、淀みない「型の流れ」がそこに生まれ、演武者の良い意味での「個性」が表現されているかを基準とする。但し、必要以上の「間」や、極端な癖と見なされる動作に関しては減点の対象となる。

【主な減点基準】

今回の型試合の場合、フラッグ式なので採点は行わないが、判定については、以下の基準にて判断する。

①失格の基準
- 規程の型と演武している型が違った場合。
- 動きを忘れ完全に止まったり、三度以上型を間違えた場合。
- 直ちに修正出来ないくらい、完全にバランスを失ったり、倒れたりした場合。
- 著しく覇気に欠け精彩がない場合や、道場生らしからぬ態度が認められた場合。
- 減点合計が、１５点以上超過した場合。

②減点５の基準
- 立ち方、部位の形、技などにおいて極端な癖があり、それらが明らかに不正確な場合。
- 技の脱落や気合いのかけ忘れ、技の順序や方向など、一度でも型を間違えた場合。
- 力の抜き差しが全くなく、かつ、必要とする瞬間に力が一点集中していない場合。
- 仮想敵を捉えておらず、目付けが不正確な場合。
- 直ちに修正は出来たが、大きくバランスを失った場合。
- 技の緩急やリズムがなく、型の「流れ」が単調で、全くメリハリがない場合。

③減点３の基準
- 立ち方、部位の形、技などにおいて若干正確性に欠ける場合。
- 気合いが小さく、覇気が認められない場合。
- 無駄な「力み」により、若干技の乱れを誘発している場合。
- 微妙なバランスの崩れがあり、安定感がないと見受けられた場合。
- 技の緩急やリズムがなく、型の「流れ」に若干メリハリが足りない場合。

④減点１の基準
- 覇気は認められるが、若干気合いが小さい場合。
- 動作と呼吸の調和が、若干乱れていた場合。
- 安定感はあるが、微妙なバランスの崩れが見受けられた場合。
- 残心が疎かになった場合。
- 動作における一瞬の躊躇、必要以上の「間」など、型の「流れ」に若干の淀みがある場合。

コート表

来　賓　席

Ａコート
型の部
一般男子
（左ブロック）

組手の部
高校生（女子）軽量
高校生（女子）重量
高校生（男子）軽量
高校生（男子）重量
マスターズ（女子）
ヤングマスターズ（男子）
マスターズ（男子）
一般（女子）軽量
一般（女子）中・重量
一般（男子）軽量
一般（男子）中・重量

Ｂコート
型の部
一般女子
（左ブロック）

組手の部
小学６年生（男子）
中学１年生（女子）軽量
中学１年生（女子）重量
中学２年生（女子）軽量
中学３年生（女子）軽量
中学２・３年生（女子）重量
中学１年生（男子）軽量
中学１年生（男子）重量
中学２年生（男子）軽量
中学２年生（男子）重量
中学３年生（男子）軽量
中学３年生（男子）重量

Ｃコート
型の部
一般男子
（左下・右上ブロック）

組手の部
小学４年生（男子）
小学５年生（男子）
小学６年生（女子）

Ｄコート
型の部
一般男子
（右下ブロック）

組手の部
小学１年生（女子）
小学２年生（女子）
小学３年生（男子）
小学４年生（女子）
小学５年生（女子）

Ｅコート
型の部
一般女子
（右ブロック）

組手の部
幼年（女子）
幼年（男子）
小学１年生（男子）
小学２年生（男子）
小学３年生（女子）

【試合前の確認事項】

- 中学生以下は、ヘッドガード着用です。
  ヘッドガードは主催者側でも準備するが、個人のものも使用可能。
  ただし、全面にガード（樹脂素材、軽金属素材）があるもののみで、目の部分に縦格子が入ってないものは使用禁止。
- 軽量級選手は、開会式前までに計量を済ませて下さい。
  １キロ以上オーバーした選手は、全試合減点１から始めて頂きます。計量は、道着を脱いで行っても構いません。
- 脛サポーター、拳サポーターは布地のスポンジ製とし、極端に厚い物や薄い物は着用不可。
  革製のパンチンググローブ等も着用不可とします。
- チェストガードはＴシャツの下へ、ファールカップは空手着の下へ着用して下さい。
- 選手は出番の４試合前までには、試合コートの待機椅子までお越し下さい。
  前の試合終了時点で待機椅子に居ない場合は失格となります。